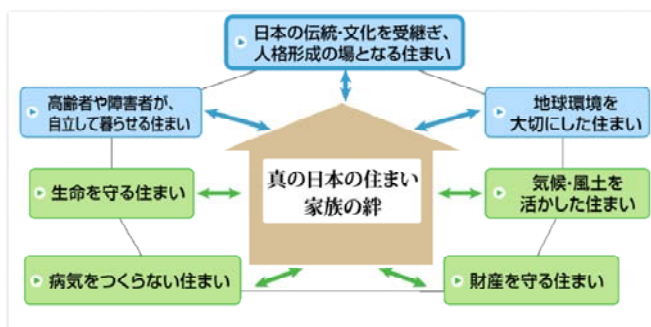


提案名	『真の日本の住まい』を目指した7つの理念実践住宅	分野	木造等循環型社会形成の分野に係る提案
提案者	優良工務店の会・関西	種別	システム提案
構造	木造住宅（在来軸組）	建て方	一戸建ての住宅

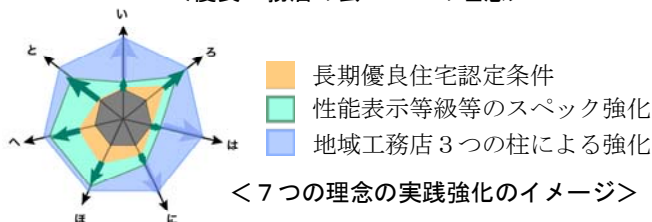
■提案の基本的考え方

7つの理念の実践

優良工務店の会(QBC)は右の7つの理念の実践を念頭におき、活動しています。長期優良住宅の制度の考え方は、制度開始以来この7つの理念に非常に近いものがあると考えています。今回の提案にあたり、長期優良住宅の認定条件と、この7つの理念に照らし合わせ、地域工務店が果たすべき役割ということを再考いたしました。結果、いわゆる“住宅のスペック”以外にも着目する必要があると考えました。そこで、スペック強化へ取り組むのはもちろん、“地域工務店が本来得意とし、また地域工務店こそが取り組むべき3つのこと”を3つの柱として取り組むことに致しました。



<優良工務店の会 7つの理念>



<7つの理念の実践強化のイメージ>

■提案内容

地域工務店が先導する(すべき)3つの柱

①伝統技術文化

長く大切に使用される住まいとするためには、伝統的な住まいの技術を長く大切に考える事が重要だと考えました。以下の5つを条件として提案致します。短期的な予算の視点などから切り捨てられがちなこれらを条件とする事で、長期的な住まいの資産価値を高め、伝統技術の継承や現代との調和を図ります。

ア. 畳技術: 日本の文化の一つでもある畳のある和室を必ず設けます。畳表のイグサや和紙は国産のものを使用します。花を生ける床の間・飾り棚を設置し、障子や木を使うことで和の心の文化を大切にします。



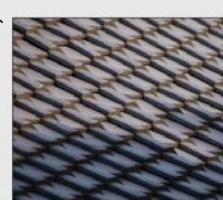
イ. 木建具技術: 無垢木材を使用した襖、障子などを必ず使用します。技術継承を図る事はもちろん、張り物の工業既製品と異なり、剥離などがおきにくく、美的な味わいも出やすいので長期の資産価値にもつながります。



ウ. 左官技術: 左官壁（京土壁、珪藻土壁、漆喰壁など）を和室やリビングに使用します（塗り面積約30平米以上）。左官の技術継承という目的はもちろん、一日の大半を過ごす部屋に、過度な加湿や乾燥を防ぎやすい調湿作用のある左官壁で健康面に配慮します。また、意匠性が富むことによる資産価値を図ります。



エ. 瓦技術: セメントやスレートを用いず、釉薬瓦、いぶし瓦、素焼き瓦等を使用します。耐久性・断熱性・通気性・遮音性ある瓦を使用し、瓦のクセを吟味しながら施工する日本古来の瓦技術の継承を図ります。また、例えば、北陸は小松瓦とするなど出来るだけ地元産を採用し、地元産業の活性化・技術の伝承も図ります。



オ. 大工技術: 無垢材を多用し、手刻みを基本とすることで、大工の若手育成を図ります。必ず床の間や飾り棚を設け、大工技術の見せ所を作るとともに、住み手にそれを感じてもらう事で日本の文化、心の文化を守ります。真壁を基本とする和室の造作は無垢材を基本とし、必ず大工による手加工とします。



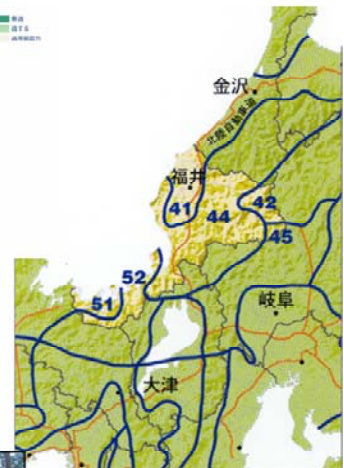
②地域気候・風土

古来、地域の気候が住宅の形態に影響を与えてきました。今は以前ほどの影響が少ないとはいえ、断熱技術の向上や空調など(これも必要だが)に頼りすぎる事により地域の気候風土や文化性が取り残されがちであるように思います。そこで、以下の取り組みを致します。

建築形態のコントロール：「データマップ 日本の気候」を活用し、地域気候に配慮した建築形態を計画

- 風をコントロールする樹木や塀
- 平面の縦横の比率
- 屋根勾配
- 壁面の反射率
- 雨戸、カーテン、障子の活用
- ブラインド、藤棚の活用
- 広縁の設置・・・などの建築形態の条件を設定、地域ごとに重み付けを行い、一定のもの以上のみを建築。

地域素材：日本の森林活用文化等に配慮し、柱・梁・桁・土台など軸組み材はすべて国産無垢材を使用しています。過半に地域等産地証明材の使用を標準仕様とします。瓦や左官壁などもできるかぎり地域に配慮したものを使用します。



▲「データマップ 日本の気候」より (監修：通産省住宅産業窯業建材課、建設省住宅局住宅整備課 発行：住宅産業研修財団)

③景観・まちなみ・美観



長く大切に使われる住まいとするためには、伝統的な住まいの技術を長く大切に考える事が重要だと考えました。以下の5つを条件として提案致します。短期的な予算の視点などから切り捨てられがちなこれらを条件とする事で、長期的な住まいの資産価値を高め、伝統技術の継承や現代との調和を図ります。

- 屋根 (長ひさし、勾配屋根、瓦など)
- 壁面 (格子、外壁色の配慮など)
- 緑化 (緑化率、シンボルツリーなど)
- 敷地 (道路境界から1m後退など)
- 玄関 (洗い出しなど)・・・など



以上が3つの柱ですが、その他に、いわゆるスペックの向上、CASBEE すまい(戸建)評価の導入、建設性能評価などに取り組み、更に「いいものをつくってきちんと手入れして長く大切に使う」住まいの実現を目指します。

■提案者からのコメント

長く愛される「真の日本の住まい」を目指すには、これまで長く愛されている(きた)技術や意匠との調和が大切だと考えています。そのことを意識した本提案は、結果、住宅資産価値が高くなると信じています。業界に関わるものとしてこれまで通り、必要な効率化を推進するのはもちろんですが、こういった“いい意味で”手間をかけた資産価値のある住まいを今後とも目指していきたいと思ひます。そして、“いい意味の手間による価値”を一般からも評価される仕組みや文化土壌の形成に、制度面等で今後とも推進していただくことに期待しています。